

平成二十三年度

修士論文・卒業論文題目

大学院文学研究科

〈歴史学専攻〉

須藤 端 都市構成からみる豊後大友氏の

領国支配について

高木 翔太 政治文化と自由民権

〈文化財学専攻〉

青木翔太郎 西瀬戸内文化の九州東岸への波

及一弥生後期を中心として一

芥川 太朗 古式土師器の成立と首長層出現

のプロセス一九州地方を中心と

して一

市原 正平 海と森の環境歴史学

内野 嗣昭 五島列島の祭礼行事と地域の特

色

榎本 美里 長頸壺考 一中・南九州を中心

として一

草場 結貴 浮立 一肥前に分布する浮立の

総合的研究一

黒木 星佳 出土文字資料から見た地方の社

会と文化 一東九州を中心とし

て一

豊崎 晃史 立地環境からみる埋納遺跡の構

造的検討とその展開 一九州地

方を中心として一

山口 将史 東南アジア（主にカンボジア、

タイ）から出土した金属製品・

材料の産地推定

吉田 裕司 遠賀川とその周辺地域における

縄文時代の地域性

史学科

〈日本史専攻〉

青野 泰孝 中世武家法の研究 一御成敗式

目と分国法の関連一

浅川 優大 鯨絵と大地震

穴見 友紀 島原の乱

安楽 直人 「勸業知事」加納久宜の研究

伊集院晃司 白河院政期における院北面衆

一創置時期と職掌について一

今泉 京子 中世社会における専修念仏の仏

教的立場 一法然と親鸞一

牛嶋 洸 真田氏三代

浦田 宗平 前田利家について

大久保愛実 千利休

小河内宏之 大隈重信の功績と条約改正

一日英交渉を中心に一

小島 実 近世藩校における試験制度の考

察 一福山藩誠之館を中心とし

て一

織本 裕也 関ヶ原の合戦

甲斐浩志郎 南朝方城塞群の研究 一肥後国

「菊池十八外城」と河内国「赤坂・

千早城塞群」から一

甲斐 波紀 徳川三代による幕藩体制の確立

甲斐 弘晃 崇徳院怨霊の考察

加藤 健司 日本ならびに西洋における銃器

発達史の比較

神之園弥奈 幕末文久期の薩摩藩と寺田屋事

件

川崎 睦美 関ヶ原合戦

河野 倫彦 殉死と武士道の関係性について

北野 裕貴 大奥

木戸 宏輔 六波羅探題から見た朝幕関係

楠原光次郎 七三一部隊の人体実験とその影

響

黒木 美朝 織田信長と朝廷 一本能寺の変

をめぐって一

小池真理子 明治期における伊勢御師の研究

一師職廃止と大麻配布問題一

才藤 佳代 平安期の貴族女性の婚姻につい

て

佐世 雅彦 織田信長とその家臣団

佐藤 友香 南蛮貿易から見る戦国時代の豊後府内

篠田 康貴 東條英機の一生

清水 響 関ヶ原の戦い

上土井沙織 熊本市史と熊本城

陣内 大輔 日本の城郭について ―その価値と認知度―

高木 亮佑 熊本城と城下町

高妻 朗久 西南戦争にみる電信制度のあり方

高野龍太郎 関ヶ原合戦

徳丸知都香 朱印船貿易と日本町

鳥越 康平 源義経の伝説

中里 文彦 分国法による領国統制の意義

中村美奈斗 和算について―西洋数学との合流まで―

永留 莉奈 アジア・太平洋戦争と日本人

那須 隆紀 明治・大正・昭和初期における民衆娯楽

灘波 陵馬 本能寺の変 ―諸説の考察―

西田いずみ 海上特別攻撃隊で使われた特攻兵機―鹿児島県から見た特攻―

野田彩也乃 大典について

長谷川圭介 九州における近世の城

原 美香子 松尾芭蕉

樋口 絃明 日・独の自動車産業の研究

古木 隆浩 紀州惣国から見た雑賀衆

堀 翔太郎 千利休と茶の湯

前 翼 長州戦争における止戦運動の考察 ―芸州藩を中心に―

前原 孔太 関ヶ原前後の島津家の動向

丸山 聡美 長宗我部元親の生涯について

三浦 千治 医学分野からみる大分の温泉

三澤 達也 中世前期の武士論

御手洗孝亮 府内大友氏の隆盛と衰退

道脇 大志 信長・秀吉・家康の城郭

皆見 朋子 足利義教の「神裁政治」について

三宅 一漢 朝鮮通信と日本

宮永 彩可 中世の「家」と女性の関係

向江 勇樹 肥前国 松浦党について

森重 祐太 前田利家 ―加賀百万石―

森田 廓人 信長・秀吉・家康の戦略と政策

八木 俊哉 島原の乱について

山口 崇 日露和親条約交渉について―長崎・下田における川路聖謨とブチャーチン―

山口 悠樹 日本のポピュラー音楽史 ―社会と音楽の共鳴―

山城由紀子 米国統治下における沖縄についての研究―コザ騒動の要因をめぐって―

山之内宏明 江戸幕府の対外危機と軍制改革

山本 一哉 硬貨の量目と戦争についての研究

横川 素大 近世の釣りの歴史とブラックバス

渡部 将平 関ヶ原の合戦

荒巻 真也 マラッカ王国の海洋貿易都市としての歴史と繁栄

泉 太喜 元朝初期における漢人世侯について

川崎 貴俊 アンコール朝におけるインド文化の受容について

酒井 和樹 不可触民とカースト制度について

徳原 一基 曹操集団の勢力拡大の過程 ―曹操とはどのような人物か―

豊嶋 幸成 マルコ・ポーロと東方見聞録

福山 朝哉 インドネシアにおけるイスラーム教育の近代化―アサントレン

を中心に―

較―

堀内 葉摘 則天武后の即位と外戚武氏につ

米田 亮平 インカ帝国 ―支配形態につい

多良 孝宣 西南戦跡出土弾丸から考える近

いて

て―

代日本の成立について

守田 裕也 オランダ東インド会社の発展と

永井 慧 中世都市博多における鍛冶師と

衰退

鑄物師の分布について

文化財学科

〈考古学・文化財科学専修〉

安次嶺幸太 南島における爪形文土器の研究

久留 達朗 南九州の墓制と隼人との関係

相川 健太 アウグストゥスの元首政

―その成立過程―

藤崎 彩乃 別府大学所蔵鉄器の保存修復・

松下 由樹 壁画と宗教 ―ポンペイ壁画を

井手 智義 柿ノ原型石斧から見る生活文化

藤山 茜 弥生時代における鳥の信仰

中心に―

の様相

水口 陽子 大分香りの博物館における環境

三浦 彰子 ルネサンス期イタリアの芸術家

川窪 大貫 日本における文化財報道の傾向

宮田 慈 鉄器の科学組成から見た原材料

と社会 ―芸術家文学者などの

と課題 ―月刊文化財発掘出土

三好 洗一 楽器の時代別・地域別出土状況

文化人とパトロンとの関係―

情報を素材にして―

から見た祭祀と楽器の関連性

吉田 祐哉 ミケーネ文明の社会構造

木下 菜奈 中世大友府内町跡における鍛冶

森 恵 古代・中世における湯屋関連遺

屋・鑄物師について

構及び遺物について

〈世界文化史専攻〉

井福 哲成 ナスカの地上絵

権丈 和徳 九州島内における終末期方墳

〈環境歴史学・文化遺産学専修〉

國米 啓文 ヴァイキング ―入江の民―

崎谷 雄紀 吉備地域の出現期古墳について

樊 超 接客の文化論

西山 侑里 古代マヤ文明における神話と儀

―弥生墳丘墓から古墳成立へ―

李 娟 智 世界遺産・仏国寺をめぐる諸問

礼の關係

―シャリーク 海部地域の古墳について

題 ―復元問題を中心に―

秦 諒治 独裁官カサエルの最期

宝田 樹 第二次世界大戦期の日本におけ

伊藤 皓太 四国八十八カ所の成立と意義

松本 理沙 ポンペイ壁画にみられる装飾の

る防空施設戦跡について

―仏教美術を通して―

違いについて ―黄金宮との比

田中 典子 古代都城におけるまじないと陰

川内 彩歌 世界遺産について ―世界遺産に

- おける負の遺産と記憶の狭間で―
川原 修平 田の神と水信仰 ―根占地区を
中心として―
儀武 龍大 沖繩の伝統的住宅建築 ―その
独自性について―
河野 実里 不動明王のかたち ―色・形・
表情について―
佐藤 千聡 日本文化における化粧 ―その
歴史と意識―
田中 一絵 陰陽師と呪術 ―その歴史と現
代における意味―
坪根沙也歌 仏師湛慶について ―その生涯
と作風の変遷―
永田 真紀 お守り ―守護の願いが込めら
れたもの―
長野聡一郎 炭坑のくらし ―筑豊炭田を中
心に―
秦 浩章 大分の磨崖仏の図像学的比較研
究
樋口なつみ 観光イメージの確立 ―大分県
日田市「天領」を事例に―
廣瀬 茜 郷土の食文化 ―福岡県田川
市・赤村を事例として―
福田健一郎 仏教における輪廻思想について
松田梨愛果 磨崖仏運動の展開 ―明治維
新期にみる神仏物離と磨崖仏
について―
森尾 真悟 出雲神話 ―現代も親しまれる
出雲の二柱神―
安恒 茜 郷土料理 ―福岡県旧浮羽郡を
事例に―
山本 弘能 資料としての浮世絵 ―江戸の
年中行事・生活―
吉井功太郎 日本の弓 ―その歴史と文化―